

## 『金属製バットの新基準』

公益財団法人

日本高等学校野球連盟

下線部が変更箇所

### 1. 最大径の制限

バットの最大直径を64mm未満とする。

### 2. 設計の規程

バット本体は金属製バットの単層管であること（バット本体とは、先端キャップ、グリップエンド、グリップテープを除いたもの。バット内部に消音効果のための充填物は可）。

### 3. 質量の規程

バットの重量を900グラム以上とする。なお、900グラムと規定しているのは完成品で、ヘッドキャップ、グリップエンドノブ、グリップテープを除いた本体の質量は810グラムとし、その誤差の許容は±10グラム以内とする。

### 4. 形状の規程

バットの先端からグリップ部までは、なだらかな傾斜でなければならない。打球部からグリップ部までのテーパ部は、絞りはじめから終了までの長さに対する半径の寸法減少割合が10%を超えてはならない。（全体傾斜率）

また、テーパ部における任意の50mmの長さに対する半径の減少割合が20%を超えてはならない。（最大傾斜率）なお、傾斜率の算出は設計値で行う。

（注）

全体傾斜率；打球部外径とグリップ部外径との差の1/2をテーパ部長さ（打球部平行部終点からグリップ平行部始点までの長さ）で割った値

最大傾斜率；テーパ部の最も傾斜の急な個所で、長さ50mm間の外径の差を1/2した値を50で割った値

### 5. 新基準の実施時期

新基準は2024年シーズンイン（第96回選抜高等学校野球大会、都道府県春季大会）から適用する。

### 6. 新基準の識別

これまで、グリップ部上部の製造年月のアルファベットに続き、Nが表示されていたが、新基準はR（リパルション=反発の略）を表示する。

現行基準バット BB JA-N（22年1月の略）

新基準バット BB JB-R（22年2月の略）

アルファベットの記号は、Aが1、Bが2と順に表記する。

以上